

「獣医学共同教育課程」設置構想の概要

平成21年12月



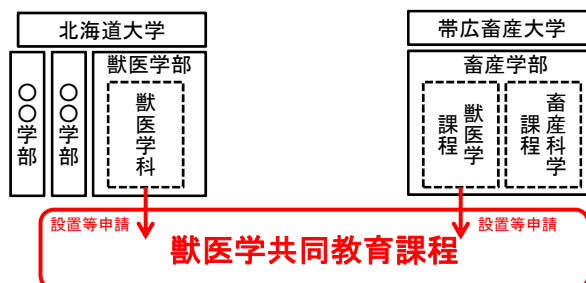
北海道大学での記者会見

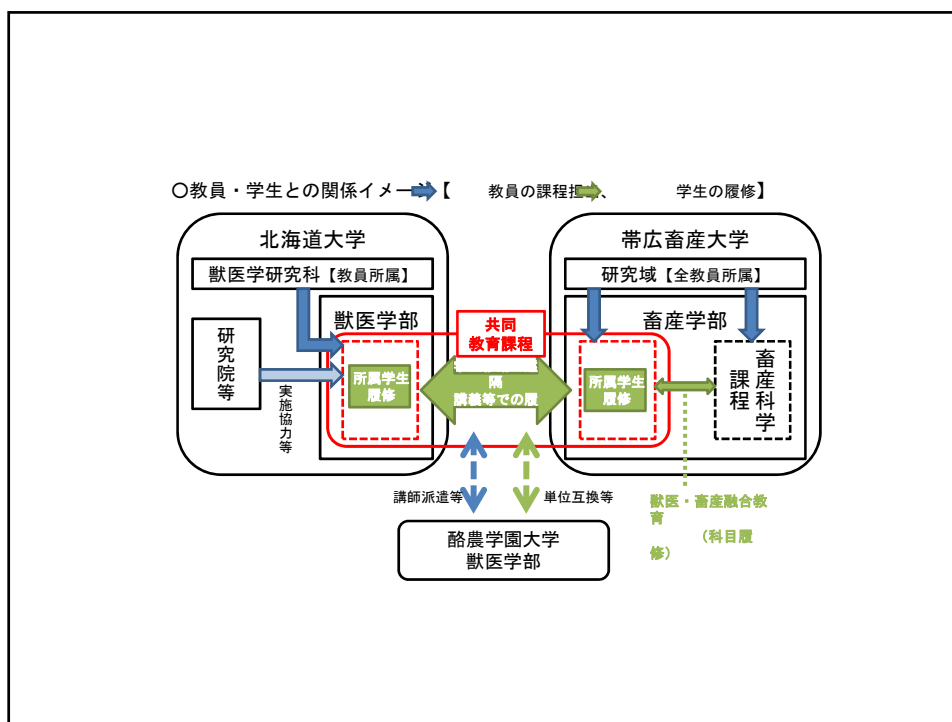
北海道大学
帯広畜産大学

獣医学教育に関する「共同教育課程」の実施

【実施主体：北海道大学、帯広畜産大学】

- 開始時期 平成24年4月（目標）
- 入学定員 北海道大学獣医学部獣医学科 40人
帯広畜産大学畜産学部獣医学課程 40人
- 編成イメージ





獣医学教育体制の充実

北海道は、産業基盤である畜産を支える牛・馬・豚等の産業動物、人の精神的糧となる犬や猫等の伴侶動物、豊かな自然に生きる野生動物が、我が国固有数の規模で人間と共生する地域である。

獣医学教育を担う北海道大学、帯広畜産大学、酪農学園大学には全国から獣医師を志す若者が集まり、上述の獣医学教育に適した環境を活用した教育を実践して獣医師養成等に務めているところである。

北海道大学は、190万都市札幌の中心部に位置し、19学部・研究院と5つの全国共同利用研究施設を擁する総合大学であり、獣医学研究科は人と動物の福祉の向上に寄与することを目的として、人獣共通感染症やライフサイエンス研究、生態系保全や小動物臨床に重点をおいた教育研究を行ってきた。

また、**帯広畜産大学**は農畜産業を基幹産業とする広大な十勝の中心都市帯広に位置し、大動物診療や生産獣医療に適した環境の下、獣医公衆衛生学教育に重点をおいた教育を行い、獣医師養成のみならず全ての畜産関連教育分野を網羅する畜産総合大学である。2つの大学は、それぞれの理念に基づく人材養成・学術研究を通じて社会からの期待に応えてきた。

しかし、前述の獣医学に対する国際的・社会的要請に応えるためには、現状の教育体制では不十分である。両大学の緊密な教育連携のもとで優れた人材を養成する体制を構築し、国際水準の獣医学教育を行うことが重要である。

獣医学共同教育課程の特色

- ① 獣医学教育を巡る世界の動向を踏まえ、国際的通用性を確保する。
- ② 我が国の獣医学教育（応用・臨床分野）において、不十分と指摘されている産業動物臨床教育、先端的伴侶動物臨床教育、公衆衛生教育を充実させる。
- ③ 農畜産業を主力産業とする北海道地域の強みを活かし、数多くの関連施設（畜産試験場、食肉衛生検査所、農業共済等）での実習、研修プログラムを充実させる。
- ④ 基礎生命科学を中心とした基礎獣医学教育、野生動物医学及び国際基準の動物実験に関する教育を充実させる。
- ⑤ 両大学が有する他学科等の教育資源を活用して、獣医学関連分野及び獣医倫理等の導入教育を充実させる。
- ⑥ 講義関連は、遠隔講義システムを活用することにより、また、実習関連は適切なフィールドを提供できる大学等へ教員・学生を移動させることにより、効率的かつ有効な教育を実施する。
- ⑦ 「農業・食品、人間の健康と福祉及び環境問題」などに興味をもたせる教育を実施する。
- ⑧ 獣医師としての基礎知識・技能を更に向上させるため、「職域等に応じた専門コース」をアドバンス科目として複数設置する。

教育上の理念及び養成する人材像

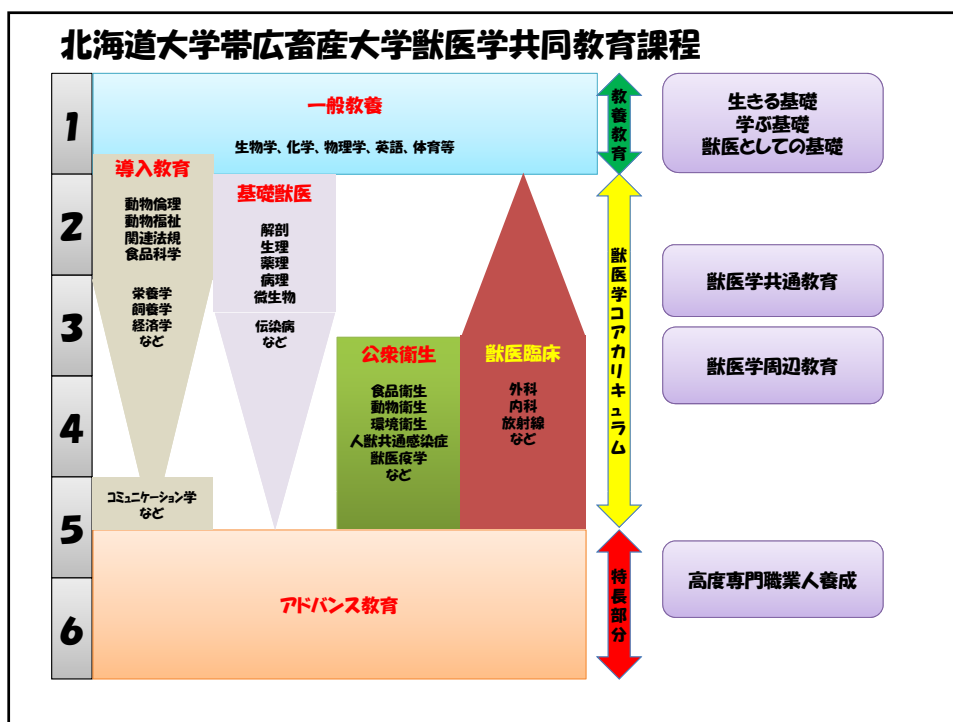
今や地球上の全ての動物生命に責任を負う自然科学としての獣医学を背景に、拡大し多様化した地球規模の獣医師ニーズに対応するため、我が国獣医学教育の国際的通用性を確保しなければならない。

この国際水準を達成する目的で、伴侶動物診療に適した大都市に位置し、多様な学問領域を有する総合大学としての北海道大学と家畜衛生分野を基盤とする公衆衛生領域に重点をおいた帯広畜産大学とがここに結集し、以下の4つの柱を総て兼ね備えた獣医師を養成することを、教育上の理念とする。

- ① 獣医師としての任務を遂行するための論理性及び倫理性に裏打ちされた行動規範を持つ。
- ② 動物疾病の予防・診断・治療、動物の健康の維持増進、公衆衛生等に関する基礎的な知識・技能を持つ。
- ③ 安定的な食料供給、家畜及び畜産物の安全確保、人獣共通感染症対策など地球規模課題の解決に貢献するための国際的視点と知識・技能を持つ。
- ④ 最先端の生命科学研究に触れ、生命現象の新たな発見や医薬品の開発などにおいて獣医学を基礎とした課題解決能力と国際的実践能力を持つ。

年次毎の教育内容のイメージ

- (1・2年次) : 社会人としての常識を一般教養教育科目で学ぶと共に、獣医師として任務を遂行するための行動規範や動物福祉・愛護などの導入科目を学ぶ。
- (2～5年次) : 獣医師として任務を遂行するための動物疾病の予防・診断・治療、動物の健康の維持増進、公衆衛生等に関する基礎的な知識・技能、安定的な食料供給、家畜及び畜産物の安全確保、人獣共通感染症対策等地球規模課題の解決に貢献するための国際的視点・知識などの基礎獣医学・応用獣医学・臨床獣医学科目を学ぶ。
- (6年次) : 5年次までに学んだ獣医師としての基礎知識・技術を更に向上させるために、高度職業人や研究者等それぞれの進路に配慮した科目(コース)を学ぶ。



1. 分野別質保証の在り方について 平成22年7月 日本学術会議の回答

文部科学省が日本学術会議に審議依頼

1) 分野別質保証の枠組み

- ①基礎・基本となる学力を培うこと
- ②教育の多様性を損なわず、自主性・自律性を尊重
- ③分野の特性に根ざした教育体系の確保

分野に固有の特性と学生が身につけるべき基本的な素養

これらを主な構成要素とする教育課程編成上の**参照基準の作成**

2) 学士課程の教養教育

専門教育と教養教育それぞれの教育理念とのバランスに配慮した
学習目標

3) 大学と職業の接続

- ①大学教育の職業的意義を向上させる
- ②多様な局面においても自らの力で対応できる応用力の向上
- ③職業的自立を支援

2. 獣医学共同教育課程

共同教育課程に関する 平成20年11月25日付通知の要約

学部:

- A大学獣医学部・B大学農学部
- A大学農学部・B大学農学部 等 (共同農学部、獣医学部)

要件

- 1)既に学科等の組織が設置されている必要がある。
- 2)共同学部では相手の大学において**31単位以上**の教育科目を履修する。
- 3)**評価は独立**して行なわれる(認証評価等)。共同教育課程に係る全体としての教育研究活動の状況を示す報告書を添付

入学志願者

- 1) 共同して選抜試験を実施することが望ましい。
- 2) 学生の本籍は学生の希望を聴取し、選抜試験結果を勘案してそれぞれの大学に割り振る。
- 3) 可能な限り、早期に入学志願者に周知

学生

- 1) 入学金、授業料は各大学に納付
- 2) 構成大学の学生間の公平性と便益が図られるように配慮
- 3) 構成大学の連名による学生証の発行、いずれの施設も利用可能

学位審査委員会

- 1) 構成大学の教員をもって構成する。
- 2) 各大学の学位審査委員会を共同で開催するのと同等であり、他の大学の教員を併任もしくは協力者となる必要がある
- 3) 学位授与は連名で授与

事務のあり方

- 1) 効率的な事務処理のために、共同で事務を一括処理する拠点を設ける。

3. 共同教育課程を構築する時の問題

教養教育:

- ① 専門教育のみではなく教養教育も共同教育の一環である。両大学の教養教育科目の単位を合わせる必要がある
- ② 北大は多くの部局を抱えているため、原理・原則が重要

専門教育:

- ① 新規科目を31単位つくり、相互に提供することは不可能
- ② 両大学の獣医の既存科目はかなり重複している
- ③ 卒業論文研究に対する考え方の違い
症例報告、課題研究なども可能にする科目設定

4. 共同教育課程の議論(専門教育)

1) 標準的モデルコアカリキュラム

- ① モデルコアカリキュラムの科目に可能な限り、合わせる教育体系を構築
- ② 全ての獣医大学が教えねばならない科目であり、共同教育課程の特色を出すことは困難
- ③ 新規科目を両大学で設定し、科目名にて特色を出すこともできるが、両大学の共同教育課程、80名を超えるスタッフでも新規科目を複数つくるのは難しい
- ④ 31単位以上の提供科目は講義を中心に教員の移動により構築する。そのためには、授業をまとめて実施(最低1日2コマ/週以上)
- ⑤ 実習単位が不足する場合は北海道庁(保健福祉部や農務部)北海道ノウサイに協力依頼

5. 共同教育課程の議論(アドバンス、教養科目)

1) 教養科目の考えかた

- ① 相互に提供することは不可能(週1回講義・実習)
- ② 学部と独立した教育理念をもつため、大学役員会の判断が必要
- ③ それぞれの分野の到達目標を一致させる。

2) アドバンス科目(社会的ニーズが高く、実践的な専門職業人の養成)

共同教育課程の特色をだす科目とする。

実学との接点となるような科目をつくる。

必修選択科目とする

- ① 獣医公衆衛生(食品衛生学、人獣共通感染症学など)
- ② 小動物臨床(イヌ、ネコ、エキゾチックアニマルなど)
- ③ 大動物臨床:ウシ、ウマ、ブタなど
- ④ 病態獣医学(病理、微生物、伝染病など)
- ⑤ 基礎獣医学
- ⑥ 応用獣医学(野生動物医学、実験動物、環境衛生)

